

平成 30 年度 ケアハウスふるさと 事業報告

【基本方針】

少しでも 長く元気で 自分らしい生活を

【年間目標】

- ① NO事故を目指す
- ② 接遇マナーの向上に努め、どこにも負けないふるさとらしいホスピタリティを目指す
- ③ サービスの質の向上(自立支援と個別ケアの実践)
- ④ 家族・医療・介護との連携
- ⑤ 職員育成
- ⑥ 安定した稼働

【実践報告】

- ① NO事故を目指す
 - ・神戸市報告事故 2 件
1 件は転倒骨折入院手術、1 件は転倒硬膜下血腫入院、共に居室内での事故である。
 - ・事故内容では、居室内での転倒事故、皮膚損傷、服薬介助ミス等が多い。事故発生後に対策を検討、定例会議(月 1 回)でも事故・ヒヤリハットを検証している。今後は、検証した対応策を確実に実施する為の、職員のスキルアップが求められる。
- ② 接遇マナーの向上に努め、どこにも負けないふるさとらしいホスピタリティを目指す
 - ・職員自らが決めた曜日ごとに異なる目標を、毎朝の申し送りで唱和することで、継続した意識付けを行っている。また、毎月の定例会議の中で全員が自身の接遇について振り返りを行うことで、意識の向上を図っている。しかし、時と場合により、実践出来ていない場面もある。また、出来ている職員、出来ていない職員間で差もある。今後も管理職が中心となり、継続した指導がしていく必要がある。
- ③ サービスの質の向上(自立支援・個別ケアの実践)
 - ・サービス担当者会議(6 ヶ月毎)で、本人と家族の意向を確認し、入居者の個性と可能性を活かしたケアプランの立案、実施に努めた。
 - ・対象者には個別対応の機能訓練を計画(3 ヶ月毎)、実施、評価した。
 - ・定例会議(月 1 回)情報を共有し、支援方法の確認、検討した。

- ・外出支援は個々の状態、状況に合わせて、柔軟に対応した。
- ・クラブ活動(カラオケ・俳句・お花・習字等)の活性化を図った。
- ・嗜好調査を定期的実施(年2回)、献立への反映に繋げた。
- ・希望者には外部の理学療法士や歯科衛生士と連携、機能向上に努めた。

④ 介護・医療・家族との連携

- ・主治医と、月1回以上、書面で情報の共有を行っている。
- ・毎月1回は相談員より家族に連絡、状況報告や家族の要望等の聞き取りを行った。
- ・相談員⇄主任、看護師⇄ケアマネとの送付ノートを作り施設内での情報の共有に努めた。
- ・年1回の運営懇談会を3月に実施し、その内容を入居者及び家族に発信した。

⑤ 職員育成

- ・個人目標管理表を導入し、個々の年間目標を設定することで、積極的に取り組んでいる職員が増えた。
定期的に管理職が確認することで、定着化を図りたい。
- ・毎月の勉強会のテーマは必須内容を優先しているが、出来る限り職員の希望も取り入れた。
今後は介護主任が中心となり、職員が交代で講師と務める形式にし、介護のプロとしての、自覚を養っていききたい。
- ・外部研修は、管理職で人選し、可能な限り参加を促した。
今後は個々の希望も取り入れながら、外部研修の参加、資格取得へのバックアップ体制の整備が必要である。

⑥ 安定した稼働

- ・97.9%と目標97.5%は達成できたが、課題は多い。
急な退去にも迅速に対応していけるよう、より一層に、待機者の確保とスムーズな入居に力を注いでいく。

【苦情受付】 なし

※平成30年度月別稼働状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
平均利用者数	39.8	39.7	39.5	39.2	39.5	39.8	39.5	38.7	38.5	39.1	39.9	37.5	39.1
平均稼働率	99.7	99.4	98.8	98.2	98.8	99.5	96.3	96.8	96.4	97.7	99.8	93.8	97.9
平均要介護度	1.9	1.9	2.0	2.0	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.2	2.2	2.2	2.1